（日刊）第19644号　（昭和19年5月30日第三種郵便物認可）

日本証券新聞

Nihon Securities Journal since 1944, a member of JIA

2016年[平成28年] 3/18 金曜日（大安）

1カ月4,988円／1部240円

日経平均 16,936.38 −38.07

日本証券新聞 Digital www.nsjournal.jp

発行所©日本証券新聞社2016　〒103-0025　東京都中央区日本橋茅場町２－16－１　土曜・日曜・祝日付は休刊　日本証券新聞 Facebook https://www.facebook.com/nsjournal　販売に関するお問い合わせ　TEL 03-6661-9415　記事に関するお問い合わせ　TEL 03-6661-9419（午前10時から正午まで）

今日の紙面
割安際立つ！低M&Aレシオ製造業……２面
ＩＰＯ社長会見
富山第一銀行、昭栄薬品……２面
知らないと怖い不動産市場の裏…最終面
ファンド情報 ドイチェAM『ザ・大企業16−04』…最終面

TOPIX週足3カ月(直近)

特別トップ対談

PCIホールディングスvsジャパンインベストメントアドバイザー

天野社長「３年後に期待」
白岩社長「50％成長を持続」

東証マザーズ指数が2月中旬から軽快な切り返しを見せている。自動車業界向け組込み系ソフト開発とIoT（モノのインターネット）に強みを持つPCIホールディングス（3918・東マ、PCI）の天野豊美社長と、金融ソリューション事業をメーンに事業分野を広げるジャパンインベストメントアドバイザー（7172・東マ、JIA）の白岩直人社長による座談会を実施した。ともにIT戦略を推進する利用者のトップに企業成長のポイントを語ってもらった。

共通点は再生エネルギー！IT！農業？

PCI　天野豊美社長

JIA　白岩直人社長

――両社の出会いのきっかけは。

天野　創業直後の業容拡大時に白岩社長に出資をお願いして、快諾頂いたのが出会いのきっかけだ。

白岩　知り合いを介して話を頂いたのは約10年前。その後、互いに株式も上場させて、今では年に2回、異業種を交えてのワイン会でも交流している。

――事業領域が異なる両社だが、太陽光発電事業で共通点がある。太陽光など再生エネルギーの成長性についてどう見ているか。

天野　JIAはダイレクトな形で太陽光発電に投資され、PCIは発電に係る運用とメンテナンスを手掛けている。将来的には、JIAのメンテナンスビジネスを手掛けることが出来ればと考えている。

白岩　京都議定書以降、一時は下火になっていた二酸化炭素の削減や地球温暖化対策は、パリ協定以降、全世界規模で関心が高まっている。実際、自然界で影響が出てきているとみられ、再生エネルギーが求められる環境となってきた。3月でJIAが手掛けるメガソーラーの案件は14件になり、これからも増える。太陽光のほか、バイオマス、中でメタン系、ちょっと変わった木質系の分野にも進出している。2月に両社の担当者を交えて第一回目の会合を持った。一つの管理システムに統一したほうがコスト的にも有効だと考えている。

天野　IT業界の中でも当社は組込み系、ソリューション系、IoT／IoEが伸びるとみている。太陽光の管理システムは最初に作るのが大変だが、遠隔監視によりシステム構築の後は、ほとんど人手がかからない。間違いなく再生エネルギーは大切になってくる。

――メーン事業を見ると、PCIは自動運転など陸上、JIAは航空機、海上コンテナリースなど空と海がフィールドとなっている。それぞれの相手企業の魅力は。

白岩　自動車の自動運転、神戸市での市バスを情報基地とする実証試験などにフォーカスした事業は魅力的だ。JIAは金融がメーンだがITとの融合も課題となっている。天野社長はもともと日本NCRの出身でITに知見があり、地銀のあるシステム構築でも高い実績を持っていらっしゃる。今後は金融分野での活躍も期待している。

天野　JIAはベンチャーでありながらいち早くグローバル化に着手していることが魅力の一つだ。PCIとしてもいずれは、共同でフィンテックの世界に入っていければと考えている。

――あらためて自社の事業をアピールしてもらいたい。

天野　PCIは自動運転にとどまらず、東日本大震災を教訓にして、安心・安全をコンセプトに国づくりに貢献していきたい。2020年の東京オリンピックに向けてインバウンド（訪日観光客）需要もあり、対応を急ぎたい。3月からはV－Loωマルチメディア放送へのチャレンジも始まっている。ただ、PCIは、常に人手不足でユーザーの声に応え切れていない。

白岩　JIAのメーンの顧客は全国の優良中堅企業だ。そのオーナーやマネージャーから話を聞くとITを使いこなせていない。人材難の声も届いている。JIAはグループで人材紹介に進出しているが、IT業界向けの人材ビジネスについても、PCIと何か一緒にできればと考えている。このほか、メディアとITの融合、今年からIPO（新規上場）コンサルタントもスタートさせた。自分たちのIPOの実績ノウハウもありホットなノウハウを提供できる。セミナーやファンド、ベンチャーキャピタル的なビジネスに広げたい。IPOの世界にITの技術がもっと入ってもいい。

天野　IPO準備についてはリーマン・ショック、東日本大震災を経験して当社もノウハウが蓄積している。

――現在の政策をにらんだビジネス展開をどう考えているか。

天野　世界70億人の人口は、2050年には100億人になるとも言われている。国内では人口減の問題を抱え、女性、海外人材の活用が課題となっているが、人材教育と保育問題が重要になる。付加価値の付くところに人材を回すシステム構築が急がれる。

白岩　高齢化社会も問題だ。JIAは定年制を採用しておらず、能力主義を採用している。このほか、地方の中核都市で産業を作っていくなど地方創生に取り組むことも必要だ。また、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）が動き出すと農業分野で大変革が起きると思う。ITを使った効率的な農業にも関心がある。

天野　農業にはPCIも関心を持っており、農業にとどまらず漁業、牧場をITでコントロールしようという構想が社内で持ち上がっている。攻める農業にいずれ人材を活用していきたい。日本の強みでもある安心・安全な有機農業分野も期待できる。

――最後に、今後の企業成長に対する意欲を。

天野　ベンチャーとしてようやくスタート台に立った。上場したことで更なる高みを目指す。これから成長が始まると思っている。当社のエンジニアの離職率は4％と業界内で極めて低く、上位顧客のリピート率はほぼ100％だ。200社以上の企業と取引しているが、上位は日本を代表する優良企業でエンジニアが増えればまだまだ伸びる。ビジネスモデルが確立できたところで、3年後は様変わりした企業となっていることに期待してほしい。

白岩　金融ソリューション事業を展開するには信用力が最も大事であるが、一方で、ベンチャースピリッツも失わずにアグレッシブに、付加価値の高い商品・サービスを提供し先進性をキープしていきたい。そのためにも資本業務提携、企業買収を有効に活用していく。過去6期増収増益で倍々ゲームに近い利益成長をみてきた。リスクをマネジメントしながら50％成長を継続したい。

◇　◇　◇

※対談の詳しい模様はユーチューブで動画配信（www.youtube.com/nsjournal.jp）しています。JIA社のホームページ、日本証券新聞Digitalでもご視聴いただけます。

日銀・新ETFが「細目」発表

設備・人材積極投資企業を支援

候補銘柄の推定も一歩前進か

15日にかけての日銀金融政策決定会合は、証券投資の決済に用いるMRF（マネー・リザーブ・ファンド）を「マイナス金利の適用外」とするなど、若干の調整が見られたものの、金融政策はおおむね現状維持。大方の想定通りとはいえ、やはり若干の〝肩透かし感〟は否めないところか。もっとも、その一方で、昨年12月に突然打ち出した〝設備・人材投資に積極的な企業のETF（上場投信）〟に関しては、「指数に関する基準等の細目」を発表しており、証券各社のクオンツアナリストなどは色めき立っているようだ。

「設備投資および人材投資に積極的に取り組んでいる企業を支援するため」のETF。日銀が年間300億円投資するとのことだが、これまでは、どんな銘柄が組み入れ対象となるのか、雲をつかむようなもの。各社で思い思いの条件を設定して、それぞれ候補銘柄の推定を行っていた。

今回明らかになった主な点は、①銘柄選定基準で、「設備投資または研究開発投資について、1つ以上の定量開示情報を使うこと」「人材投資は、定量開示情報または定性情報（育成制度、人材の多様性）を使うこと」「設備投資・人材投資と企業成長の関係を確認すること」「一時的な変動に惑わされないよう、複数年の情報を使うなどすること」。②銘柄ユニバースや指数ルールで、「債務超過や連続赤字などではないこと」「流動性が十分にあること（200日以上取引があり、売買代金1000億円以上）」「構成銘柄は1000銘柄以上、母集団は1000銘柄以上であるような指数構成銘柄」「原則的に浮動株時価加重、上限5％」「リバランスは年1回以上」「指数が公表されること」――などだ。

もちろん、具体的な指標などに言及していないため、なお漠然とした感は残るが、それでも、指数の性格についてのイメージをつかみやすくなったことは確かだろう。

こうした〝ガイドライン〟を踏まえた候補銘柄選定レポートが今後続々と発表されることになりそうだが、まず第1弾として、顧客向けメールで試算内容を公開したSMBC日興証券のものを紹介しておこう。

同証券は、「②のユニバースやルールをかんがみるに、JPX日経400構成銘柄から抽出することが暗に想定されているように思える」との前提のもとで、188銘柄を抽出。浮動株時価加重を行うと、業種別で情報通信、医薬品、銀行、輸送用機器のウエートがJPX日経400を上回り、保険や不動産、サービス、機械などが下回るとか。

個別の組み入れ上位は、NTT、KDDI、ソフトバンク、武田、セブン&アイ、ドコモ、三井住友FG、みずほFG、JR東日本、アステラスなど時価総額上位銘柄が占める格好となった。

運用実務面からは妥当な内容だろうが、これだけでは面白くない。あえて下位の方から、意外性のありそうな銘柄を拾っていくと、ニューフレアテクノロジー（6256・JQ）、イーグル工業（6486）、ゲオHD（2681）、ワコム（6727）、ヤオコー（8279）、スターツ（8850）、カナモト（9678）、日油（4403）、セリア（2782・JQ）、ウエルシア（3141）といったところも浮かび上がってくる。

ニューフレア（6256・週足）

「水素」で見直す 大陽日酸
4ヵ月ぶり売り残超過に

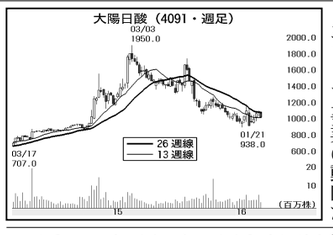
大陽日酸（4091）は昨年3月高値1950円形成から1年が経過。時価はなお、当時の半値近くにとどまるが、ここにきて復活高への手掛かりが相次いで浮上してきている。

経済産業省では、「2025年までに水素ステーションを現在の4倍の320カ所に増やす長期目標を固めた」などと報じられている。「水素ステーション」というと岩谷産業のイメージが強いが、大陽日酸でも霞が関、大阪、横浜、成田、セントレア（中部国際空港）などに2ケタの納入実績を持ち、水素急増合金型充填設備や充填試験用容器システムなど多彩な水素設備を手掛けている。

トヨタ自動車サイトによると、「MIRAI」が注文から納車まで3年待ち状態となるなど、燃料電池自動車が意外な好人気を博しており、水素社会の実現が近づけば、「水素プロジェクト」を推進中の大陽日酸にとってもメリットは大きなものとなりそうだ。

その一方で、前週7日付日刊香料新聞に、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）と共同開発したカーボンナノチューブ事業の動向が報じられるなど、中期的な成長持続に向け、着実に布石が打たれていることがうかがわれる。

株価は全くの底値圏ながら、15日に発表された前週末現在の信用残が4カ月ぶりの信用倍率1倍割れ（売り残超過）に転じ、転機の兆しを印象付けている。ここ13週移動平均線が上向きに転じたチャート面でも、昨年6月にデッドクロスして以来のゴールデンクロス（13週線と26週線）が接近してきたようだ。



大陽日酸（4091・週足）

Eストアー JQ4304

IPO初値
アカツキ 公開価格割れ

17日IPOのアカツキ（3932・東マ）の初値は1775円。公開価格（1930円）を8％下回った。直後に1935円まで買い戻される場面もあったが、その後は終始、公開価格を下回って推移。終値は1802円だった。

スマートフォンゲーム開発・運営会社。創業6年目かつ今3月期は利益倍増を計画するなど、ベンチャー投資妙味が満載。〝IPOらしい〟銘柄ではあったが、最大吸収額約70億円との荷もたれ感がネックに。

17日新規上場

アカツキ
（3932・東マ）
初値　1775円
公開価格　1930円

風林火山

ロシアの日

「2016年はロシアとの関係で節目となる面が多い年」。年の初めに、みずほ総合研究所の高田創チーフエコノミストは、こう語っていた。日ソ共同宣言署名（日ソ国交正常化）から「60年」、チェルノブイリ原発事故から「30年」、ソ連崩壊から「25年」――などが重なるためだ。

ロシアといえば、今週末18日に、ウクライナ領のクリミア、セヴァストポリを自国編入して、ちょうど2年になる。そして、この「3月18日」も、ロシアとは、不思議と因縁のある日だ。

1921年に、ポーランドと当時のソ連が平和条約を締結し、ウクライナなどで紛争中の領土を分割したのが3月18日で、以来95年が過ぎた。また、46年に、スイスとソ連が国交樹立したのも、やはり3月18日で、それから70年。

さて、今年の3月18日は…。ロシア・タス通信は以前、新宇宙船ソユーズMSについて「2016年3月18日打ち上げを目指す」と発表していたが、どうなったのだろう。ともあれ、領土に絡んだキナ臭い動きより、宇宙ロケットの話の方が夢があってよっぽどいい（北朝鮮は除く？）。安倍晋三首相訪露にらみで、ロシア関連なら、**東洋埠頭（9351）**。

DATA BOX（17日）

東証概況

東証は3日続落。FOMCの利上げペース減速予想を好感し、前場は買われたものの、円高が警戒され後場は失速。空運や電力ガス、証券などが軟調。KDDIやファナック、日東電、TDKなどが安く、子会社不正会計の疑いで米当局が調査と伝わった東芝が急落。高砂熱学が上方修正も売られ、アナリストの格下げからオークマも売り優勢。一方、原油高から石油関連が上昇し、建設株も堅調。リョービは上方修正と増配を好感。

日経平均	16,936.38	▼38.07
TOPIX	1,358.97	▼1.53
出来高	22億729万株（16日 18億6,149万株）	
売買代金	2兆2,618億円	
時価総額	504兆5,339億円	
値上がり	872銘柄	値下がり 915銘柄
変わらず	157銘柄	
新高値	23銘柄	新安値 3銘柄
騰落レシオ	123.02%	Δ8.35

日経平均サイコロ（6勝6敗）
○○○●●●○○○●●●
（以上東証1部 大引け）

JPX日経インデックス400　12279.75　▼12.22

新興概況

新興市場は下落、後場に入り売り優勢に。マザーズ指数は6営業日ぶりの反落で、そーせいやサイバダイン、ミクシィ、ナノキャリア、インベスターズCなどが安い。半面、抗体に関する米国特許からカイオムがストップ高となり、MRTが大幅反発、決算からエニグモも買い優勢。一方、JASDAQもTOP20銘柄を中心に後場売られ、ハーモニックやエンJPN、リプロセルなどが安い。ビットコイン取引所でフィスコはストップ高。

マザーズ指数	940.01	▼21.80
日経JASDAQ平均	2441.75	▼4.90
J―Stock Index	2167.28	▼21.91
JQ― Index	108.84	▼0.61
出来高	2億1,059万株	
売買代金	644.08億円	
時価総額	7兆7,779億円	

JASDAQ平均サイコロ（9勝3敗）
○○○○●●○○○○○●

円相場（14時）　112.05―112.06
高値112.00　安値112.95

外資系証券の注文（寄り前、市場推計）
売り 1210万株　買い 710万株
差し引き ▼500万株

16日 NYダウ	17325.76	Δ74.23
NASDAQ指数	4763.97	Δ35.30

日経平均15000円前後を底として次は18000円前後で一服後当面21000～22000円前後へ押目買

◎国策に売なし・株式市場の現点は宝の山なり・マイナス金利はボディブローなり（3月16日）

◎待つ事久し１ヶ年前後２年前の底値にお里帰りの天与の買場到来の

（3407）旭化成　断固買なり

◎御存知の如く会員予告ずみなれど昨年3/19日の高値1260円よりマンション不正の悪材料にて大暴落中なり。現点の600円台の安値は2014年4/11日の底値653円に２年ぶりのお里帰りの大安値なり人の噂も75日最終目標倍返しの1200円予想値に押目買一貫〇〇〇円より買

迷える投資家は発想の大転換を。門外不出当社独自の損の少ない上記の如き底値銘柄を書面にてお知らせします。その後の成果を論より証拠お確め下さい（返信切手1000円要）

ころばぬ先の杖・田舎の名医が目標の
大伸経済研究社
電話 058-243-5690
（午前・8:30～11:00）〒501-3144 岐阜市芥見大般若２－25

（実績40年）金融商品取引業者 登録番号 東海財務局長（金商）第45号（一般社団法人）日本投資顧問業協会会員
会費１ヶ年50万２ヶ年80万円（継続同額）（税込）
（少数会員制）（的中率に自信あり）（広告参照）
将来の運用成果を約束するものではありませんが
（銘柄相談自由）（入会勧誘致しません）
公表銘柄は一例であり全てではありません
目標値は当社独自の分析による予想値です
有価証券の運用には、価格変動リスク、株式発行者の信用リスク、流動性リスクがあります。運用の結果、元本を割り込み、損失を被ることがあります。リスクに関して詳しくは契約締結前の書面をご覧ください。

無料診断受付中！

ペプチドリーム・そーせい・野村・三井物
トヨタ・日産自・三菱UFJ・ソフトバンク
みずほFG・村田製・NTT・菱地所

※その他の銘柄でもフリーダイヤルへお気軽にお電話下さい※

フリーダイヤル（通話料金無料）0120-66-9338
営業時間 平日（AM8:30～PM7:30）　土（AM10:00～PM3:00）

有価証券の運用には、価格変動リスク、株式発行者の信用リスク、流動性リスクがあります。運用の結果、元本の割り込み、損失を被ることがあります。リスクに関して詳しくは契約締結前の書面をご覧ください。

株式会社 東山総研

3月19日(土)特別営業
AM10時よりPM3時までの間にお願いします。

株の本無料プレゼント！

「株の成功法」106P
どんな株を買えばよいか。銘柄選びの原則。買いよりもむずかしい売り時。株価のとらえ方。株価をはかる尺度。売り買いの見方。相場金言集。他
東山総研・東山一平 著
ご希望の方は、左記フリーダイヤルにてお申し込み下さい。

［好評提供番組］ラジオNIKKEI「株式・今週の焦点」
毎月第2火曜日の午前8時50分より9時まで・10分間

報酬等について

会員区分	期間	会費（税込）	助言の内容
1銘柄会員	1ヶ月	108千円	期間内に1銘柄の買い助言
特別会員	6ヶ月	324千円	2ヶ月に1回以上の投資判断に関する助言
	1年	540千円	
	2年	864千円	
ルビー会員	6ヶ月	1,296千円	2ヶ月に5回以上の投資判断に関する助言
	1年	2,376千円	
	2年	4,104千円	

契約に関しては、契約締結前の書面をご覧ください。
http://www.higashiyamasouken.co.jp
名古屋本店〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目43番12号（東山ビル3階）052-551-0401
東京連絡先 03-6427-6795（転送）
大阪連絡先 06-3249-6587（転送）
証券取引行為、金銭・有価証券の預託貸付はいたしません。
金融商品取引業者（投資助言業）登録番号東海財務局長（金商）第49号